

日機装売上収益1003億円

前年比2.3%減 営業利益2.1倍 1～6月期

宮崎日機装(宮崎市高岡町、竹田浩之社長)の親会社・日機装(東京、加藤孝一社長)は14日、2025年1～6月期決算(国際会計基準)を発表した。売上高に当たる売上収益は前年同期比2.3%減の1003億円、営業利益は約2.1倍の58億円、部門別の売上収益は、

700万円だった。売上収益の減少要因は、前年同期に譲渡した一部事業の収益がなくなったことや、想定より為替が円高に振れた影響によるもの。純利益は為替を主要因に17.2%減の49億2900万円だった。

25年12月期の連結業績予想はいずれも前期での発表

ンダストリアル事業が0.6%減の536億8400万円。航空宇宙事業はサブライチエーン(供給網)の回復遅れが影響するなどして、8.3%減の80億600万円。メディカル事業は血液透析で国内市場が縮小する一方で中国や欧州市場が拡大し、2.9%減の385億8600万円だった。

宮崎日機装の竹田社長は「米中貿易問題やサブライチエーンの問題はあったがビジネスは堅調で中期経営計画最終年度としての目標は達成できる見込み。宮崎で造る製品は市場から評価され選ばれており、製造ラインや人を増やし生産増強に対応していく」と話している。(湯田光)